

多賀城市文化財調査報告書第73集

高原遺跡

—第2・3・4次調査報告書—

平成16年3月

多賀城市教育委員会

序 文

多賀城市には、特別史跡に指定されている多賀城跡や多賀城廃寺の他、多くの文化財が知られております。このような歴史的文化的遺産を末長く保存・活用し、次世代に伝えていくことは、文化財保護に携わる者の一人として、大きな責務と考えております。

さて、本書は平成14・15年度に受託事業として実施した、高原遺跡の発掘調査報告書です。本遺跡は、昭和61年に試掘調査を実施して以来本格的な調査を行うには至らず、遺跡の性格等については不明でしたが、3度にわたる調査の結果、古代の掘立柱建物跡や竪穴住居跡等が発見され、また、一括廃棄されたと思われる古代の土器が多量に見つかったことから、多賀城との関連が目されるようになりました。

本書に掲載した成果が、今後の調査研究の資料として大いに活用していただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査の実施から本書の刊行までご指導・ご協力をいただいた方々に対し、厚く御礼申し上げます。

平成16年3月

多賀城市教育委員会

教育長 櫻井 茂 男

例 言

- 1 本書は、平成13年度に確認調査として実施した第2次調査と平成14・15年度に受託事業として実施した第3・4次調査成果をまとめたものである。
- 2 遺構番号は、一連番号である。
- 3 本書中で使用した遺構の種類を示す記号は、以下のとおりである。
SB：掘立柱建物跡 SA：柱列跡 SI：竪穴住居跡 SD：溝跡 SK：土壌 SX：その他の遺構
- 4 平面図における座標値は、測量法の改正により平成14年4月1日から経緯度の基準は、日本測地系に変わり世界測地系に従うことになったが、過去の調査区と整合性を計るため、従来の「平面直角座標系X」を用いている。発掘基準線についてはX：-188,194,000、Y：14,875,000を東西・南北方向の基準とし、これらを基準として、1m離れるごとに東西方向はE01・E02…、W01・W02…と表示し、南北も同様にした。
- 5 挿入図中の高さは標高値を示している。
- 6 土色は『新版標準土色帖』（小山・竹原：1994）を使用した。
- 7 柱痕跡が確認されていない建物の方向・柱間は、柱穴の中央に柱位置を想定して計測した。
- 8 本書の執筆は、担当者の協議をもとに石川俊英があたった。図版作成については文屋亮が担当した。また、遺物の整理については、臨時職員の熊谷純子、今野妙子、鹿野智子の協力を得た。
- 9 調査に関する諸記録及び出土遺物はすべて多賀城市教育委員会が保管している。

目 次

I 高原遺跡の概要	1
II 調査の経緯と経過	2
III 第2・3次調査	3
IV 第4次調査	10

調査要項

- 1 調査主体 多賀城市教育委員会 教育長 榎井 茂男
- 2 調査担当 多賀城市埋蔵文化財調査センター 所長 高倉 敏明
- 3 調査概要

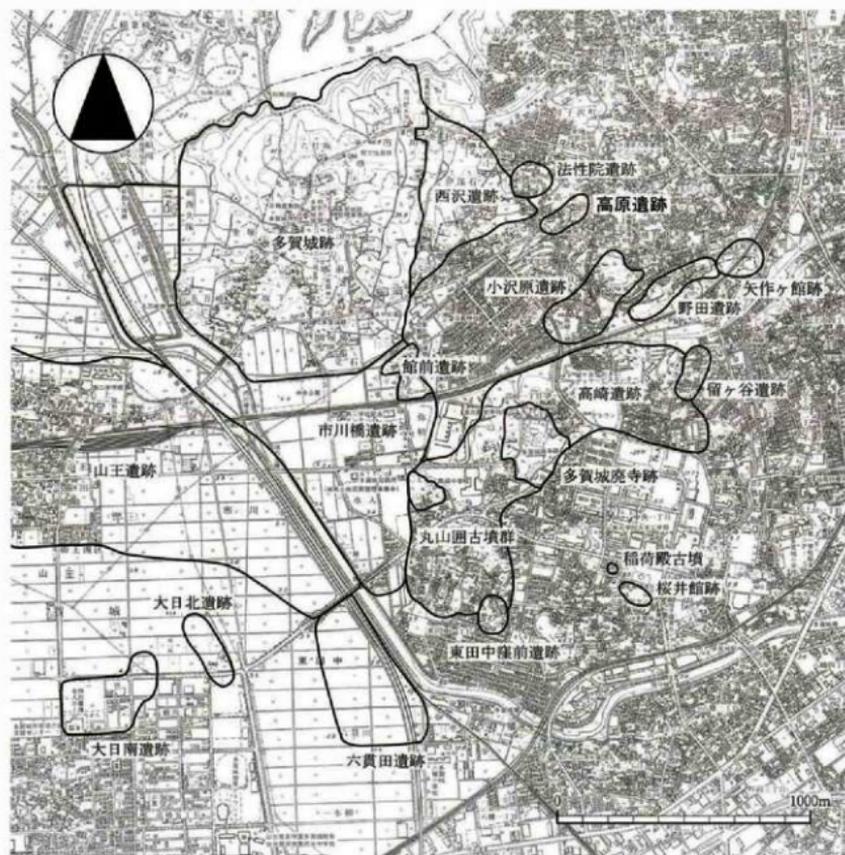
遺 跡 名	所 在 地	調査面積	調 査 期 間	調 査 員
高原遺跡第2次調査	浮島字高原71-12	188㎡	平成14年3月7日	石川俊英 鉄田龍市（文化財課）
高原遺跡第3次調査	浮島字高原71-12	210㎡	平成14年5月21日～6月3日	石川俊英 若松啓文
高原遺跡第4次調査	浮島字高原86-2	250㎡	平成15年7月22日～8月21日	石川俊英 菊池 豊 文屋 亮

- 4 調査協力者 (地権者)伊藤甚一 ㈱大東建託
- 5 調査参加者 赤間栄二郎(3次) 浅野喜久男(4次) 遠藤実(3次) 大場勝喜(3・4次)
小野玉乃(3・4次) 南城美枝子(3次) 橋本善(3次) 平山節子(3次)
藤澤拓司(4次) 真野勝雄(3次) 福永孝二(3次) 渡辺ひで子(4次)
渡辺ゆき子(3・4次)

I. 高原遺跡の概要

高原遺跡は、特別史跡多賀城跡と同じ丘陵上に立地し、多賀城外郭東部の東側に位置している。周辺には西沢・法性院・小沢原遺跡が所在している。本遺跡は宮城県遺跡地図には古代・中世の散布地として登録されている（註）。これまで調査については、昭和61年度に第1次調査（試掘調査）が行われただけで実態は不明であった。今回、平成13・14・15年度にかけて3度にわたる発掘調査を実施した結果、主な遺構として古代の掘立柱建物跡や竪穴住居跡、溝跡、土壌他が発見され、古代の遺物も豊富に出土した。このような成果により、従来不明であった本遺跡の年代・性格について、次第に明らかになりつつある。

（註）宮城県教育委員会 『宮城県遺跡地図』 宮城県文化財調査報告書第176集 1998年



第1図 高原遺跡と周辺の遺跡

II. 調査の経緯と経過

1. 調査に至る経緯

今回、開発行為に係わる3件の発掘調査については、いずれも本市浮島に在住する伊藤甚一氏よりアパート建設に係る開発協議が出されたことを契機としている。第2次調査は、遺構の確認調査として実施し、第3次調査はその調査成果に基づいて、事前調査として実施した。第4次調査については、第3次調査の成果をふまえ、西側隣接地を事前調査として実施したものである。



第1図 調査区位置図

2. 調査経過

第2次調査は、平成14年3月7日に実施した。対象地内に3ヶ所の調査区を設定し、便宜的に東側から1T、2T、3Tとした。はじめに重機によって表土除去作業を行い、遺構検出に取りかかった。その結果、1・2Tでは現表土下10～15cmで岩盤が露出し遺構は確認できなかったことから、すでに削平されて、遺構は失われたものと判断した。3Tでは北東隅で方形の落ち込みと、南西方向に延びる溝跡と小溝跡各1条を検出した。本トレンチの東側全域では古代の堆積層が確認されたため、部分的に掘り下げを行った。各遺構の写真撮影、平板による平面図作成を行い、埋戻しを行って調査を終了した。

第3次調査は、平成14年4月26日発掘調査依頼文の提出を受けて5月21日より開始し、重機によって表土除去作業を行った。前回の調査で岩盤と捉えていた土層は盛土であり、堆積層よりも新しいものであることが判明した。また、方形の落ち込みは、竪穴住居跡であり、小溝跡は住居跡の周溝であることが明らかになった。翌日作業員を使って遺構精査を行い、住居跡とこれと重複する大小の柱穴、溝跡、土壌等を検出し、新しい順に埋土を除去して行った。27日平面図作成のため発掘基準線の設定を行い、平面図作成に着手した。大型の柱穴2基については、他に組み合う柱穴を検出できなかったが、その他の柱穴は、1棟の建物跡として確認することができた。これらの遺構は住居跡→大型柱穴→建物跡→溝跡という新旧関係を把握した。第2次調査で発見した堆積層については、一部掘り下げを行い、この下層より沢状の落ち込みと平場を検出した。30日には全景写真撮影を行った後、住居跡の周溝について検討を行い、その結果3時期の変遷を確認した。6月3日住居跡の平面図を作成し、すべての調査を終了した。

第4次調査は、平成15年5月14日発掘調査依頼文の提出を受けて、7月22日から開始し、重機によって表土除去作業を行った。午後から遺構検出作業に入り、方形状の落ち込みや溝跡、土壌等を検出する。これらの遺構については、方形状の落ち込みは竪穴住居跡と判明し、また、北西部で検出した溝跡からは、須恵系土器を主体に多量の遺物が出土した。8月4～5日には平面図作成のため発掘基準線を設定する。断面・平面図を作成し、8日全景写真撮影を行った。21日各溝跡のベルト除去・土壌の完掘、住居の平面図補足等を行った。同日発掘器材を撤収し、すべての調査を終了した。

Ⅲ. 第2・3次調査

1. 調査成果

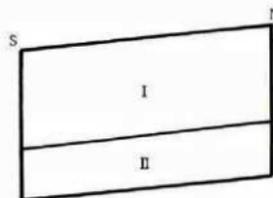
(1) 基本層序

調査区は、北側から南東方向に傾斜する丘陵斜面に位置している。南側は削平を受けているため、遺構の遺存状況は悪い。東側には広範囲に堆積層が分布していた。

今回の調査で確認できた層序は以下のとおりである。

第Ⅰ層 2.5Y4/4オリブ褐色土 層厚12~30cm。

第Ⅱ層 2.5Y4/6明黄褐色土 地山 遺構検出面。



第1図 層序模式図

(2) 発見遺構と遺物

今回の調査によって発見された遺構は、掘立柱建物跡1棟、柱列跡1条、竪穴住居跡1軒、溝跡1条、土壕3基、沢状遺構、平場状遺構である。以下、各遺構について説明する。

SB01掘立柱建物跡

調査区北西部の地山面で発見した桁行3間、梁行3間以上の東西棟掘立柱建物跡である。検出した7基の柱穴のうち、3基について柱痕跡を確認した。SA02柱列跡、SI03竪穴住居跡より新しく、SD04溝跡より古い。方向は東妻で見ると北で約6度西に偏している。梁行については東妻が総長約5.15m南より(1.84)、1.78、(1.63)である。桁行柱間は北側東より(1.89)、(1.76)である。柱穴は円形及び方形で、規模は長辺0.31~0.38m、短辺0.23~0.34m、深さは5~31cmである。埋土はにぶい黄褐色土、灰黄褐色土を主体とし地山土である凝灰岩粒子を含んでいる。柱痕跡は直径12~14cmの円形である。遺物は掘り方から土師器甕、須恵器杯、須恵系土器皿が出土している。

SA02柱列跡

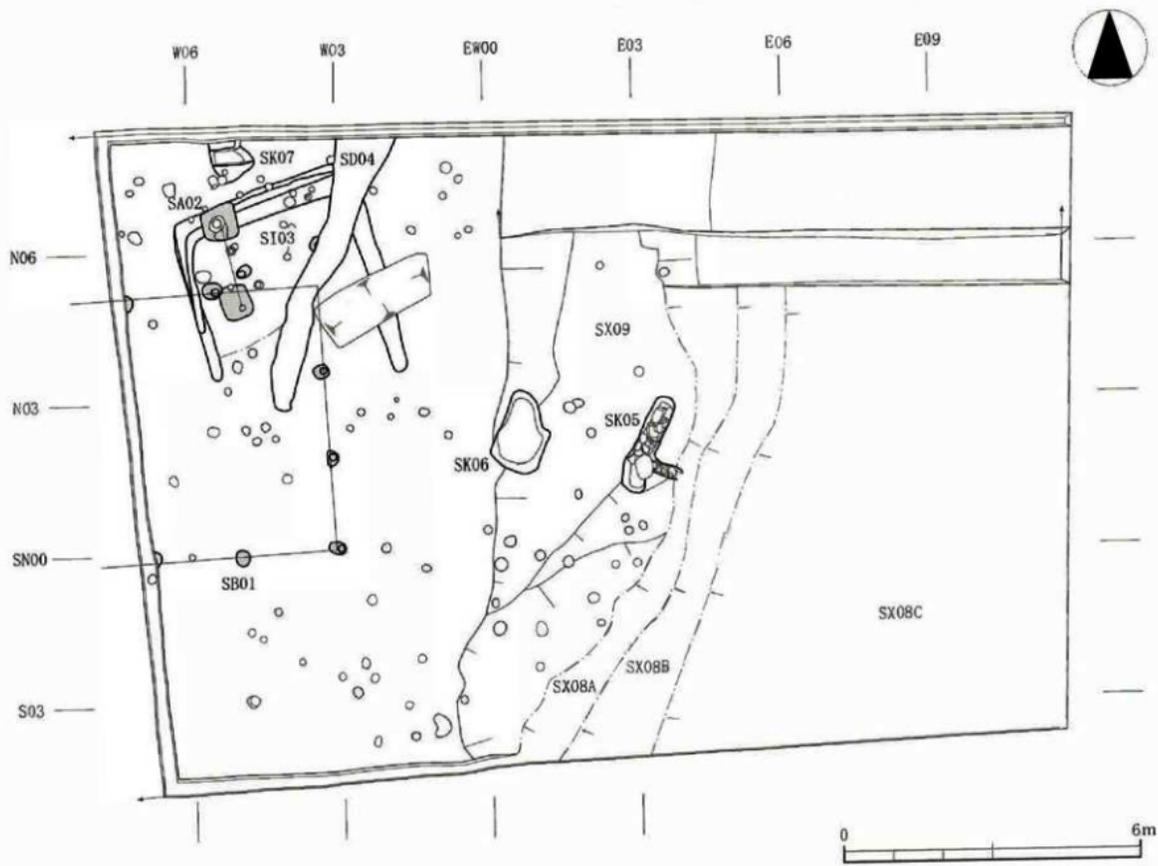
調査区北西部の地山面で発見した柱列跡である。南北に並ぶ柱穴2基を検出したのみであり、その周辺では2基の柱穴のみで、それと組み合う柱穴を確認できなかった。SI03竪穴住居跡より新しく、SB01掘立柱建物跡より古い。柱穴は方形である。北側の柱穴には抜き取穴を確認している。規模は長辺0.68~0.7m、短辺0.58~0.64m、深さ0.3~0.4mである。埋土は北側の柱穴は2層、南側では3層に区分される。いずれもにぶい黄褐色土、褐色土を主体とし、明黄褐色土ブロック細粒を含んでいる。遺物は掘り方より土師器甕、須恵器甕が出土している。

SI03竪穴住居跡

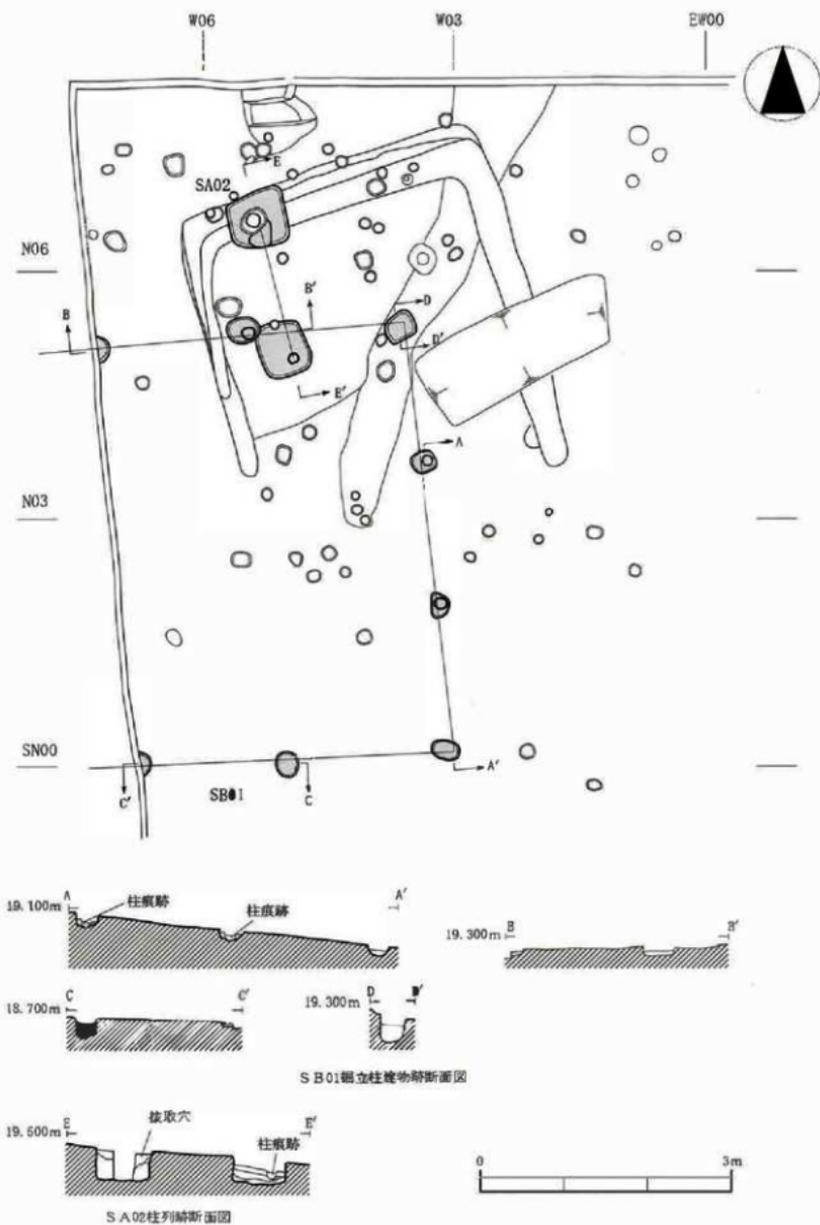
調査区北西部の地山面で発見した竪穴住居跡である。北辺と東・西辺の一部を検出したのみで、南側は掘削されているため失われている。重複関係を持つどの遺構よりも古い。カマドは検出できなかった。周溝から3時期の変遷を確認できた。以下、古い順(A~C)に説明する。

SI03A 北辺と西辺の一部を検出した。規模は、北辺で見ると東西約3.8m以上である。柱穴は確認できなかった。周溝は上幅19~25cm、下幅8~12cm、深さ7~30cmで、埋土は地山凝灰岩細粒を多く含むにぶい黄褐色土である。

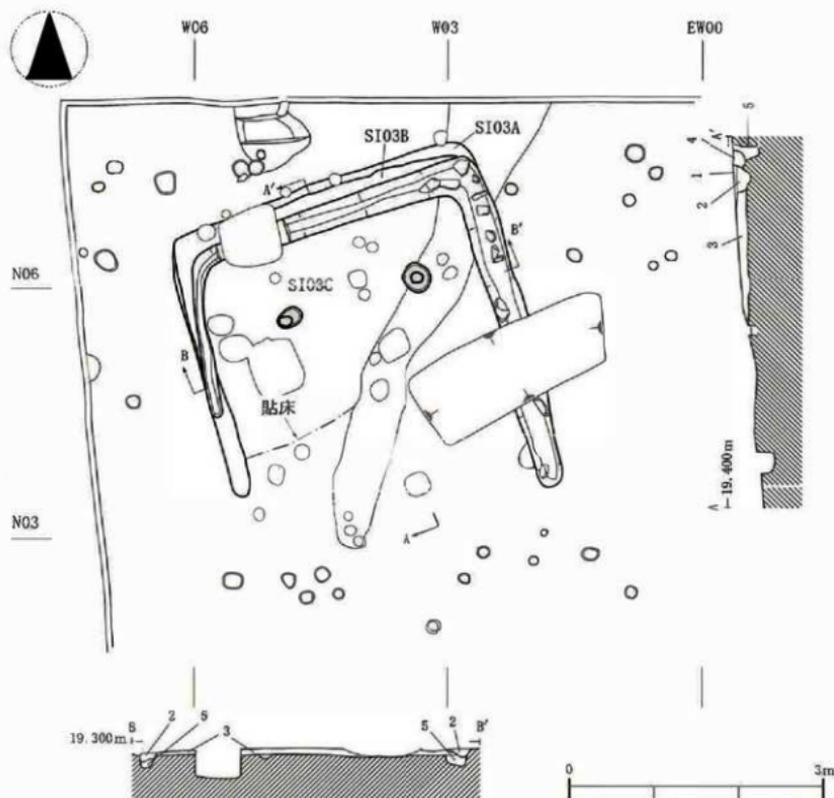
SI03B 北辺と北西コーナーを検出した。規模は北辺で見ると東西約3.6m以上である。周溝は上幅20cm



第2図 遺構配置図



第3圖 SB01・SA02平面圖・断面圖

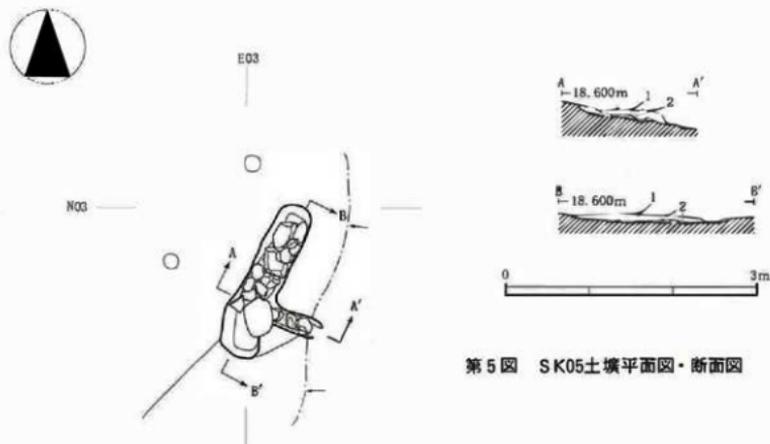


第4図 SI03A・B・C竪穴住居平面図・断面図

No	色調・土性	特徴	No	色調・土性	特徴
1	10YR4/4褐色土	小礫を多く含む。 地山ブロックを含む。C期埋土	4	10YR5/4にぶい黄褐色土	地山粘土ブロックを多く含む。 B期埋土
2	10YR4/4褐色土	地山粘土ブロックを少量含む。 C期埋土	5	10YR5/4にぶい黄褐色土	地山凝灰岩細粒を多く含む。 A期埋土
3	10YR5/4にぶい黄褐色土	地山粘土ブロックを多く含む。 炭化物粒を含む。C期貼床			

以上、下幅15cm、深さ14cmで、埋土は地山粘土ブロックを多く含むにぶい黄褐色土である。柱穴は確認できなかった。遺物は周溝から土師器片が出土している。

SI03C 北辺と東・西辺の北側を検出した。規模は東西約3.6mで、方向は東で約18度北に偏している。周溝は上幅12~40cm、下幅7~24cm、深さ10~16cmで、埋土は地山粘土ブロックを少量含む褐色土である。住居内の埋土は小礫や地山ブロックを含む褐色土、貼り床は炭化物や地山粘土ブロックを多量に含むにぶい黄褐色土である。柱穴は2基検出している。平面形は楕円形と方形である。規模は短辺0.22~0.32m、長辺0.31~0.32m、深さは0.17mで、埋土は黄褐色土である。



第5図 SK05土塙平面図・断面図

No.	色調・土性	特徴
1	10YR5/2灰黄褐色粘土	
2	10YR5/3にぶい黄褐色土	凝灰岩粒をわずかに含む。

SD04溝跡

調査区北西部の地山面で見出した南北溝である。重複する遺構の中で最も新しい時期のものである。溝の北側は調査区外に延びている。南側はSI03竪穴住居跡の南西付近で削平のため失われている。確認した長さは5.7mである。方向は北で約20度東に偏している。規模は上幅0.46~1.1m、深さ7~18cmである。壁面は底面から緩やかに立ち上がる。底面は多少凹凸がある。埋土は2層に区分される。上層は暗褐色粘質土、下層は黒色粘土質土で、いずれも褐色粘土を含んでいる。遺物は土師器杯・甕が出土している。

SK05土塙

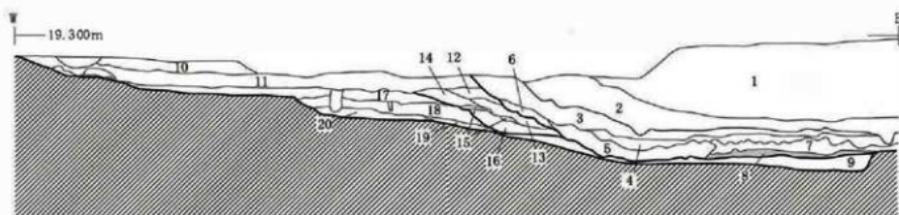
調査区中央部東側、SX09平場状遺構面で見出した土塙である。平面形は南北方向に細長く延びる土塙に「ト」字状に東西溝が取り付いている。SX08Aより新しい。本遺構の内部には、約20~40cm大の自然石が充填されている。規模は南北2.0m、東西0.5m、深さは5~9cmである。溝は長さ0.63m、幅22~24cm、深さ5~12cmである。壁は南北方向では、緩やかに立ち上がるが、東西方向は垂直気味に立ち上がっている。底面は平坦で、溝は東側に傾斜している。埋土は2層に区分される。上層は灰黄褐色粘土、下層はにぶい黄褐色粘土で、凝灰岩粒わずかに含んでいる。遺物は出土していない。

SK06土塙

調査区中央部東側、SX09平場状遺構面で見出した不整形の土塙である。規模は南北1.66m、東西1.0m、深さは2~17cmである。壁面は底面から緩やかに立ち上がり、底面は平坦である。埋土は2層に区分される。いずれもろい凝灰岩ブロックを含む黒褐色粘質土である。遺物は土師器甕、須恵器甕、須恵系土器皿・高台付皿が出土している。

SK07土塙

SI03竪穴住居跡の北側の地山面で見出した不整形の土塙である。規模は南北0.83m以上、東西0.85m、



第6図 SX08、SX09土層断面図

No.	色調・土性	特徴	No.	色調・土性	特徴
1	3.5Y7/6明黄褐色土	盛土	11	10YR3/4暗褐色土	堆山粒を斑点状に含む。
2	7.5Y3/1オリーブ黒色粘土		12	2.5Y4/3オリーブ褐色土	堆山粒を含む。B期
3	7.5Y4/1灰色粘土	C期	13	2.5Y4/3オリーブ褐色粘土	酸化鉄を多く含む。B期
4	7.5Y3/2オリーブ黒色粘土	C期	14	2.5Y4/2暗灰黄色粘土	酸化鉄、堆山粒を含む。B期
5	7.5Y4/1灰色粘土	C期	15	10YR3/2黒褐色土	B期
6	5Y3/2オリーブ黒色土	C期	16	2.5Y3/2黒褐色粘土	礫、堆山ブロック、酸化鉄を含む。B期
7	7.5Y3/2オリーブ黒色粘土	C期	17	10YR3/2暗褐色土	堆山粒を含む。
8	5Y8/2灰オリーブ色土	灰白色火山灰をブロック状に含む。C期	18	2.5Y4/2暗灰黄色粘土	酸化鉄、堆山粒を含む。A期
9	10Y4/1灰色土	A期	19	2.5Y4/3オリーブ褐色粘土	酸化鉄、堆山粒を含む。A期
10	10YR3/3暗褐色土	堆山粒をわずかに含む。	20	2.5Y3/3オリーブ褐色粘土	小礫、堆山ブロックを含む。A期

深さは10～15cmである。壁面は東側では底面より緩やかに立ち上がり、西側では垂直気味に立ち上がる。底面は凹凸がある。埋土は2層に区分される。上層は黒褐色粘質土、下層は黄褐色粘質土で黄褐色土（地山土）を含んでいる。遺物は土師器甕、須恵器杯、須恵系土器皿が出土している。

SX08沢状遺構

調査区東側全域で検出した。東西方向からは東側に緩やかに傾斜し、南北方向では北から南側に傾斜する沢状の落ち込みである。規模は東西約11.6m以上、南北約13m以上である。深さは最大約1.5mまで掘り下げた。土層の堆積状況から、堆積層をはきんで3時期（A～C）の変遷を確認した。埋土は西側から東側に向かって堆積している。

SX08A 規模は、東西約5.7～8.4m 南北約10.2m以上で、深さ0.2mである。底面は東側に向かって緩やかに傾斜している。埋土は5層に区分される。灰色土、オリーブ褐色粘土、暗オリーブ褐色粘土、暗灰黄色粘土、黒褐色土の順に堆積している。

SX08B 規模は、東西約6.7～10.2m 南北約10.3m以上で、深さ0.45m前後である。底面は平坦である。埋土は5層に区分される。黒褐色粘土、黒褐色土、暗灰黄色粘土、オリーブ褐色粘土、オリーブ褐色土の順に堆積している。

SX08C 規模は、東西約7.5～11.1m 南北約10.5m以上で、深さ最大1.4mである。底面は多少凹凸が見られるが、平坦である。埋土は8層に区分される。1.2層は現代の盛土とオリーブ黒色粘土である。その下層には灰色粘土、オリーブ黒色粘土が互層に堆積している。最下層は灰白色火山灰をブロック状に含む灰オリーブ色土である。

SX09平場 状遺構

調査区東側、SX08沢状遺構Aの西側で検出した。規模は東西1.35～2.85m、南北6.75m以上である。広範囲な平坦面を呈しており、人為的に形成された地形と見ている。平場面はSK05-06土墳、小穴の検出面となっている。

2. まとめ

- (1) 調査の結果、古代の掘立柱建物跡1棟、竪穴住居跡1軒、柱列跡1条、溝跡1条、土壇3基、沢状遺構、平場状遺構を発見した。
- (2) 主な遺構の年代については、出土した遺物と新旧関係から掘立柱建物跡、溝跡は概ね平安時代（10世紀前半頃）、竪穴住居跡はそれ以前と見られる。
- (3) 本遺跡は、今回の3次にわたる調査によって、古代の集落跡と窺える遺跡であることが判明した。



調査区全景（東より）



北西側遺構群完備状況（南より）

写真図版

IV. 第4次調査

1. 調査成果

(1) 基本層序

調査区は北部から南部にかけて傾斜しており、北東部は岩盤まで削平されていた。このため、本周辺から検出した遺構については、地山検出遺構としている。北西部では、南西部に分布する堆積層が遺構検出面となっている。今回の調査で確認できた層序は以下のとおりである。

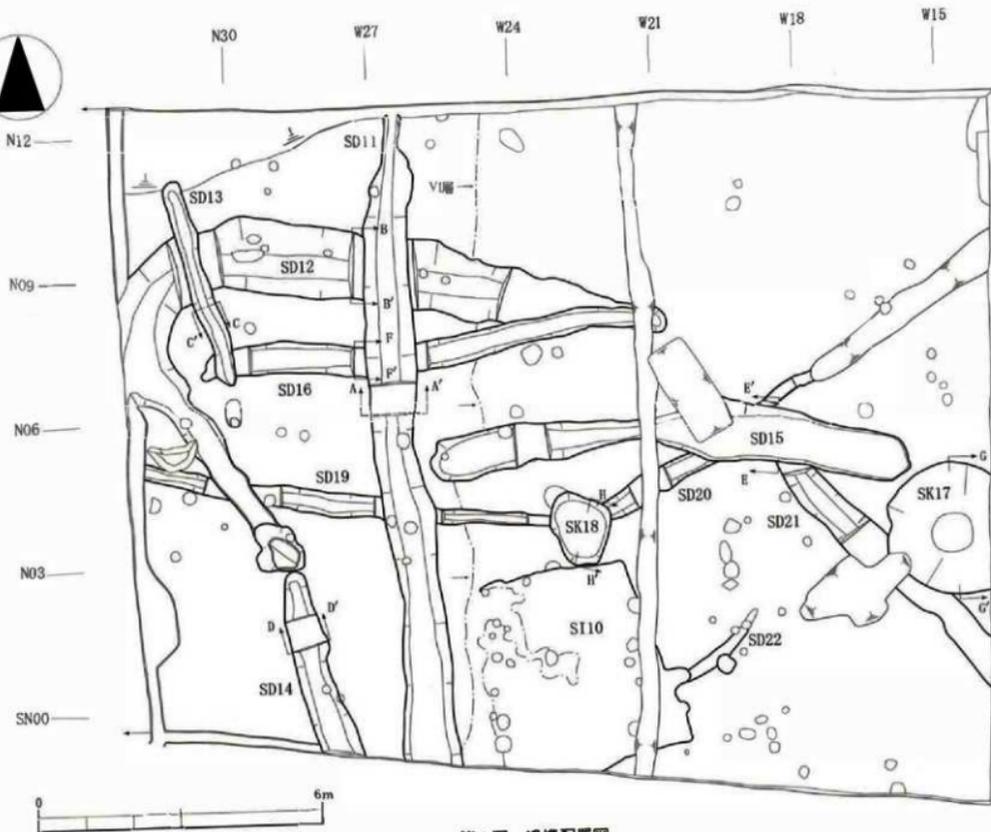
第Ⅰa層	2.5Y4/2	暗灰黄色土	調査区北西際に堆積している。現代の盛土
第Ⅰb層	2.5Y4/2	暗灰黄色土	層厚3～44cm 調査区のほぼ全域に堆積している。現代の耕作土
第Ⅰc層	2.5Y4/1	黄灰色粘土	北西部に傾斜する現代の湿地。
第Ⅱ層	10YR4/4	褐色土	調査区南西部にⅠc層とⅢ層の間に堆積している。層厚5cm前後。
第Ⅲ層	2.5Y4/4	オリーブ褐色土	層厚4～20cm 調査区のほぼ全域に堆積している。
第Ⅳ層	2.5Y4/3	オリーブ褐色土	層厚8～13cm 調査区南西部に堆積している。
第Ⅴ層	2.5Y4/3	オリーブ褐色粘土	調査区中央部西側に堆積する。層厚最大18cm。
第Ⅵ層	10YR4/3	にぶい黄褐色粘土	調査区北西部から南西部に堆積する。遺構検出面
第Ⅶ層	7.5YR4/3	褐色粘土	調査区北部から南西部に堆積する。
第Ⅷ層	10YR6/2	灰黄褐色粘土	地山

(2) 発見遺構と遺物

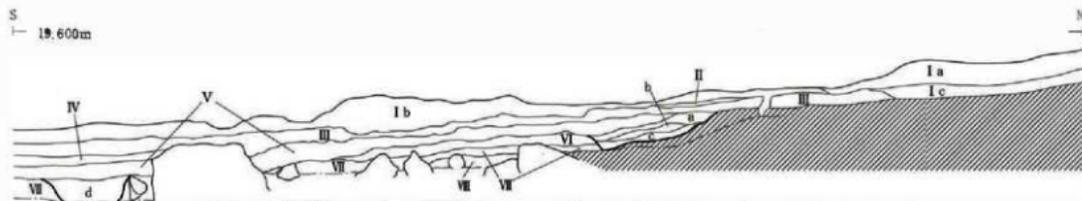
今回の調査によって発見された遺構は、竪穴住居跡1軒、溝跡10条、土壇2基、柱穴等である。以下、各遺構について説明する。

SI10竪穴住居跡

調査区中央部南側の地山面で発見した竪穴住居跡である。南辺の一部は調査区外へ延びている。北辺の西側と西辺は削平のため失われている。また攪乱によって、周溝とカマドの北側の側壁も破壊されているため、残存状況は悪い。規模は南北で4.1m、東西3.06m以上である。SD22溝跡より新しい。方向は東辺で見ると、北で約21度西に偏している。カマドは地山土を貼り付けて東辺南側に構築している。規模は東西50cm、南北75cmである。燃焼部内からは支脚が一点出土している。検出した煙道部は、長さ約0.38m、幅最大0.21m、深さ8cmである。煙道の周囲は赤変している。また、カマドから東側に約1m離れた場所には、煙出しと見られる径約40cmの穴を検出している。カマドの前面には、炭化物や焼土ブロックを含んだ焼土層が、南北1.1m、東西1.63mの範囲で分布する。カマドの南側には、貯蔵穴と見られる径32cm前後の円形の土壇も検出している。次に、柱穴について見ると、カマドの南側及び北東・南東隅の3ヶ所で壁柱穴と見られる小穴を検出している。住居内から主柱穴を検出できなかったことから、本住居の上屋を支えたのは、壁柱穴と見ている。周溝は東辺と北辺・南辺から検出した。規模は上幅12～26cm、下幅4～12cm、深さ5～21cmである。床面の南側には、東西約2.5m、南北約0.45～1mの範囲で貼り床を確認した。埋土は2層確認できた。上・下層ともににぶい黄褐色粘土質シルトを主体とし風化凝灰岩粒・炭化物・地山ブロックを含んでいる。周溝は黄褐色土、地山ブロックを含むにぶい黄褐色土と炭化物、焼土粒を含む褐色土である。貼り床は黄褐色土、地山ブロックや風化凝灰岩粒を含むにぶい黄褐色土である。遺物は土師器杯・甕、須恵器杯・甕・長頸瓶が出土している。



第1図 遺構配置図



No.	色調・土粒	特徴	No.	色調・土粒	特徴
I a	25Y4/2暗灰黄色土		VI	10YR4/2におい黄褐色粘土	増山のモロ山肌を含む。
I b	25Y4/2暗灰黄色粘土		VII	7.5YR4/3暗褐色土	増山肌を含む。
I c	25Y4/4灰黄色粘土		VIII	10Y5.5/2灰黄褐色粘土	酸化鉄を多く含む。
II	10YR4/4褐色土	炭化物、小礫を含む。	a	10YR4/3暗褐色土	SD12清砂層土
III	25Y4/4オリーブ褐色土	炭化物を含む。	b	10YR4/3暗褐色土	SD12清砂層土
IV	25Y4/3オリーブ褐色土	炭化物を含む。	c	10YR4/3暗褐色土	SD12清砂層土
V	25Y4/3オリーブ褐色粘土	小礫を含む。	d	10YR4/3におい黄褐色粘土	遺砂層土

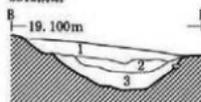
西壁断面図

SD11溝跡



SD11溝跡		
No.	色調・土粒	特徴
1	10YR4/3におい黄褐色粘土	小礫、炭化物粒を含む。

SD12溝跡



SD12溝跡		
No.	色調・土粒	特徴
1	10YR4/3暗褐色粘土	炭化物、増山粒子を含む。
2	25Y4/3オリーブ褐色粘土	炭化物、増山粒子を含む。
3	25Y4/2オリーブ褐色粘土	炭化物、増山粒子を含む。

SD16溝跡



SD16溝跡		
No.	色調・土粒	特徴
1	10YR4/3暗褐色粘土	礫を多く含む。
2	10YR4/2灰黄褐色粘土	炭化物、増山肌を少量含む。

SD14溝跡



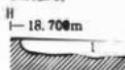
SD14溝跡		
No.	色調・土粒	特徴
1	25Y4/2暗灰黄色粘土	炭化物を少量含む。

SD13溝跡



SD13溝跡		
No.	色調・土粒	特徴
1	10YR4/3におい黄褐色粘土	炭化物、炭灰岩粒を含む。

SK18土壌



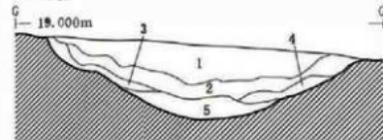
SK18土壌		
No.	色調・土粒	特徴
1	10YR5/4におい黄褐色粘土	炭灰岩粒を多く含む。

SD15溝跡



SD15溝跡		
No.	色調・土粒	特徴
1	25Y4/4オリーブ褐色粘土	小礫、炭灰岩粒を含む。

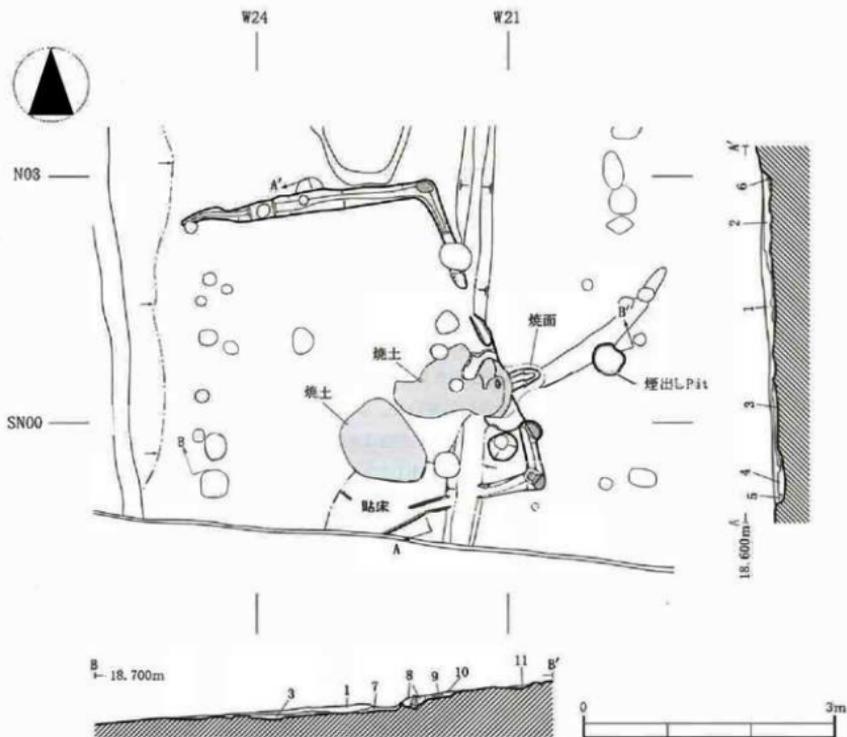
SK17土壌



SK17土壌		
No.	色調・土粒	特徴
1	10YR4/4褐色粘土	炭灰粘土、炭化物、礫を含む。
2	10YR4/4褐色粘土	炭灰粘土、礫を含む。
3	10YR4/3暗褐色粘土	増山土を含む。
4	10YR4/3におい黄褐色粘土	酸化鉄粒、炭灰粘土を含む。
5	10YR4/2暗褐色粘土	増山土を含む。

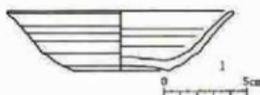


第2図 西壁断面図及びSD11・12・13・14・15・16、SK17・18土壌断面図



第3図 S110竪穴住居跡平面図・断面図

No	色調・土性	特徴	No	色調・土性	特徴
1	10YR5/4にぶい・黄褐色土	炭化凝灰岩、岩、炭化物粒を含む。	7	10YR4/4褐色土	炭化物粒、粘土粒を多量に含む。
2	10YR5/4にぶい・黄褐色土	炭化凝灰岩、岩、地山ブロックを含む。	8	10YR4/4褐色土	炭化凝灰岩粒、炭化物粒、粘土粒を含む。焼結部
3	10YR5/3にぶい・黄褐色土	粘土粒、地山ブロックを含む。	9	10YR4/4褐色土	炭化物粒、粘土粒を少量含む。煙道部
4	10YR5/4にぶい・黄褐色土	黄褐色地山ブロック、炭化凝灰岩を含む。結核	10	7.5Y4/6褐色土	粘土、炭化物粒、粘土粒を含む。煙道部
5	10YR4/4褐色土	黄褐色地山ブロック、炭化凝灰岩、炭化物、粘土粒を含む。均質埋土	11	10YR2/1灰褐色土	炭化物粒を多く含む。煙出し
6	10YR5/4にぶい・黄褐色土	黄褐色地山ブロックを含む。均質埋土			



No	種類	器種	部位	特徴	口径・残存率	底径・残存率	器高	登録番号
1	須臾器	杯	1-1	口ケタナク	(13.5) 5/24	(5.7) 8/24	3.7	R4

第4図 S110竪穴住居跡出土遺物

SD11溝跡

調査区西部の第VI層上面で発見した南北溝である。両端は調査区外に延びている。検出した長さは13.4mである。SD11・16・19溝跡より新しい。方向は、北で約4度西に偏している。規模は上幅0.34~1.2m下幅0.18~0.98m、深さ5~15cmである。壁面は底面より緩やかに立ち上がり、底面は凹凸がある。埋土は小礫と炭化物粒を含むいぶい黄褐色土である。遺物は土師器杯・甕、須恵器杯・甕・長頸瓶、須恵系土器皿・高台付皿が出土している。

SD12溝跡

調査区西部の第VI層上面で発見した溝跡である。溝は調査区中央部北側から東西方向に約11m延び、西壁際で大きく屈曲して南側に延びている。溝の南端には南北約1.3m、東西0.95mの規模を持つ不整形の落ち込みを確認している。検出した長さは約15.7mである。SD19溝跡より新しく、SD11・13・16溝跡より古い。方向は、北側の東西部分で見ると東で約5度南に偏している。規模は上幅0.48~1.5m、下幅0.2~0.7m、深さ0.38~0.8mである。壁面は底面より緩やかに立ち上がり、底面は平坦である。埋土は3層に区分される。1層は炭化物や地山粒子を含む暗褐色土、2・3層は炭化物や地山粒子を含むオリーブ褐色粘土である。いずれの層中にも遺物を含んでいる。遺物は土師器杯・高台付杯・甕・蓋、須恵器杯・甕・長頸瓶、須恵系土器皿・高台付皿、平瓦・丸瓦が出土している。

SD13溝跡

調査区北西部の第VI層上面で発見した南北溝である。溝の北側は攪乱によって破壊され、南側はSD17溝跡と重複する地点で停止している。重複する遺物の中で最も新しい。方向は北で約16度西に偏している。長さは4.4mで、規模は上幅0.35~0.46m、下幅0.15~0.24m、深さ2~13cmである。壁面は底面より立ち上がり、底面は多少凹凸がある。埋土は炭化物、凝灰岩粒を含むいぶい黄褐色土である。遺物は土師器杯・甕・蓋、須恵器甕、須恵系土器皿・高台付皿が出土している。

SD14溝跡

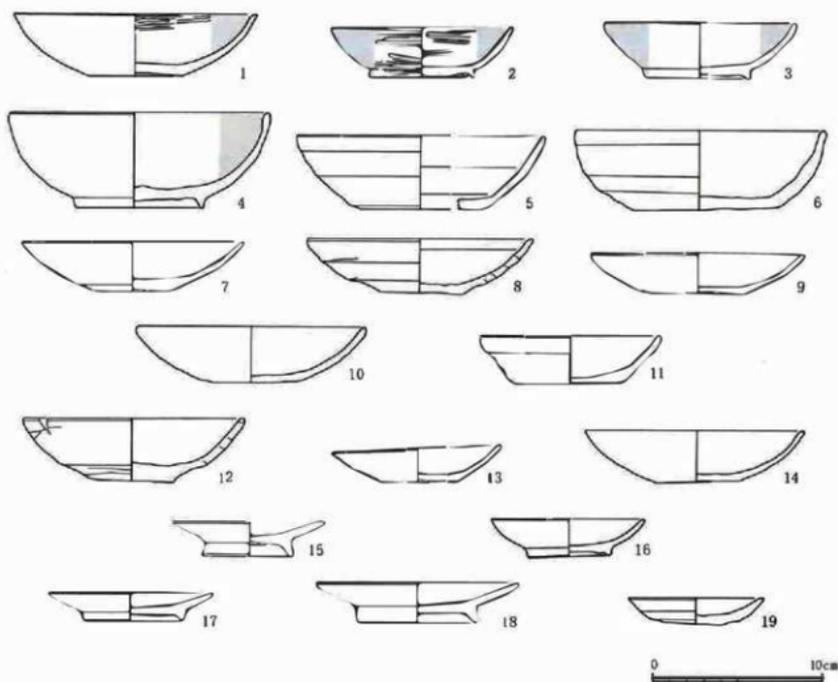
調査区南西部の第VI層上面で発見した南北溝である。溝の北側はSD12溝跡に取り付く不整形の落ち込みにほぼ接する所で停止し、南端は調査区外に延びている。検出した長さは3.85mである。方向は北で約14度西に偏している。規模は上幅0.45~0.83m、下幅0.21~0.45m、深さ2~20cmである。壁面は底面より緩やかに立ち上がり、底面は平坦である。埋土は炭化物を少量含んだ暗灰黄色粘土である。遺物は土師器杯・高台付杯・甕・小型甕、須恵器杯・甕・瓶、須恵系土器皿・高台付皿、石鏃が出土している。

SD15溝跡

調査区中央部の地山面で発見した東西溝である。長さ10.4mである。SD20・21溝跡より新しい。方向はほぼ発掘基準線に沿っている。規模は上幅0.4~1.3m、下幅0.18~0.86m、深さ2~11cmである。壁は底面より緩やかに立ち上がり、底面は平坦である。埋土は小礫、凝灰岩粒を含むオリーブ褐色粘土である。遺物は土師器杯・甕、須恵器甕・長頸瓶、須恵系土器皿、施釉陶器が出土している。

SD16溝跡

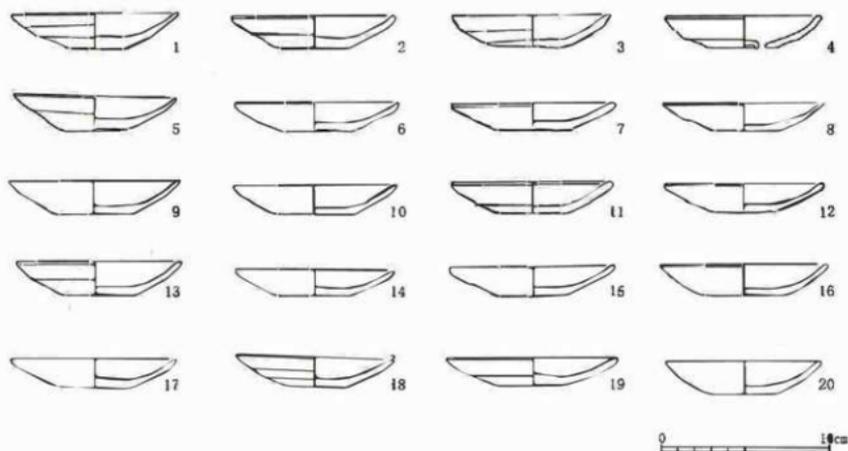
調査区北西部の第VI層上面で発見した東西溝である。SD12溝跡より新しく、SD11・13溝跡より古い。長さ約9.0mである。方向は東で約5度北に偏している。規模は上幅0.38~0.67m、下幅0.18~0.43m、深さ3~22cmである。壁面は底面より急な角度で立ち上がり、底面は平坦である。埋土は2層に区分される。上層は暗褐色土粘土、下層は灰黄褐色粘土である。遺物は土師器杯・高台付杯・甕、須恵器杯・高台付杯・



(単位: cm)

No.	風 貌	器 種	層位	特 徴	口径・残存率	底径・残存率	器高	登録番号	写真図版
1	土師器	杯	1-2	ヘラミガキ 黒色施埋	(14.4) 3.5/24	5.6 24/24	3.8	R37	
2	土師器	杯	1-2	内外ヘラミガキ 黒色施埋	(10.8) 11/24	(6.3) 17/24	3.9	R7	
3	土師器	高台付杯	1-2	内外ヘラミガキ 黒色施埋	(11.3) 3/24	6.2 24/24	3.4	R51	
4	土師器	高台付杯	1-2	ヘラミガキ 黒色施埋	(15.5) 7/24	7.6 24/24	5.8	R36	3-1
5	須恵器	杯	1-2	ロクロナデ	(14.3) 4/24	(9.2) 5/24	(4.5)	R9	
6	須恵系土器	皿	1-2	ロクロナデ	(14.9) 10/24	(8.3) 24/24	(4.7)	R13	3-2
7	須恵系土器	皿	1-2	ロクロナデ	(13.2) 2/24	4.6 24/24	3.0	R40	
8	須恵系土器	皿	1-2	ロクロナデ	13.3 17/24	4.9 24/24	3.3	R11	3-4
9	須恵系土器	皿	1-2	ロクロナデ	12.6 15/24	5.2 18/24	2.4	R26	
10	須恵系土器	皿	1-2	ロクロナデ	(13.6) 8/24	5.5 24/21	(3.4)	R32	
11	須恵系土器	皿	1-2	ロクロナデ	(10.8) 6/24	6.3 24/24	2.9	R30	
12	須恵系土器	皿	1-2	ロクロナデ	13.2 16/24	4.9 18/24	3.9	R10	3-3
13	須恵系土器	皿	1-2	ロクロナデ	10.5 12/24	4.4 24/24	2.1	R50	
14	須恵系土器	皿	1-2	ロクロナデ	12.9 9/24	4.9 24/24	3.2	R28	
15	須恵系土器	高台付皿	1-2	ロクロナデ	(9.0) 5/24	5.4 24/24	2.1	R20	
16	須恵系土器	高台付皿	1-2	ロクロナデ	(9.1) 17/24	(5.0) 24/24	(2.4)	R47	3-13
17	須恵系土器	高台付皿	1-2	ロクロナデ	9.8 24/24	6.0 24/24	1.7	R45	3-16
18	須恵系土器	高台付皿	1-2	ロクロナデ	(12.1) 8/24	(7.2) 15/24	2.4	R19	
19	須恵系土器	皿	1-2	ロクロナデ	(7.9) 17/24	(4.6) 24/24	1.7	R14	3-17

第5図 SD12溝跡出土遺物(1)



(単位：cm)

No.	種類	器種	層位	特徴	口径・残存率	底径・残存率	器高	登録番号	写真図版
1	須恵系土器	皿	1-2	ロクロナデ	9.8 24/24	3.6 24/24	2.2	R22	3-12
2	須恵系土器	皿	1-2	ロクロナデ	9.7 24/24	3.8 24/24	2.0	R21	3-11
3	須恵系土器	皿	1-2	ロクロナデ	(9.6) 10/24	4.2 24/24	(2.0)	R23	
4	須恵系土器	皿	1-2	ロクロナデ 底飾穿孔	9.3 18/24	4.3 24/24	2.0	R24	3-14
5	須恵系土器	皿	1-2	ロクロナデ	9.6 22/24	4.5 24/24	2.2	R27	3-9
6	須恵系土器	皿	1-2	ロクロナデ	9.7 12/24	4.3 19/24	2.3	R29	
7	須恵系土器	皿	1-2	ロクロナデ	9.8 24/24	4.4 24/24	1.7	R15	3-10
8	須恵系土器	皿	1-2	ロクロナデ	(9.6) 17/24	4.1 24/24	1.8	R44	3-7
9	須恵系土器	皿	1-2	ロクロナデ	10.1 14/24	4.7 24/24	2.0	R53	
10	須恵系土器	皿	1-2	ロクロナデ	9.7 22/24	4.7 24/24	1.8	R25	3-15
11	須恵系土器	皿	1-2	ロクロナデ	(9.5) 7/24	4.3 20/24	(1.9)	R18	
12	須恵系土器	皿	1-2	ロクロナデ	(9.5) 5/24	4.0 24/24	1.7	R54	
13	須恵系土器	皿	1-2	ロクロナデ	(9.9) 7/24	4.3 24/24	2.1	R12	
14	須恵系土器	皿	1-2	ロクロナデ	(9.4) 10/24	4.3 24/24	1.6	R52	
15	須恵系土器	皿	1-2	ロクロナデ	9.8 24/24	4.2 24/24	1.8	R31	3-8
16	須恵系土器	皿	1-2	ロクロナデ	(10.0) 14/24	4.4 24/24	1.9	R49	
17	須恵系土器	皿	1-2	ロクロナデ	9.8 15/24	4.4 24/24	1.8	R46	
18	須恵系土器	皿	1-2	ロクロナデ	(9.4) 8/24	(3.2) 19/24	1.9	R48	
19	須恵系土器	皿	1-2	ロクロナデ	10.2 18/24	3.1 20/24	1.7	R17	
20	須恵系土器	皿	1-2	ロクロナデ	9.2 24/24	3.9 24/24	2.0	R43	3-5

第6図 SD12溝跡出土遺物(2)

埴・長頸瓶、須恵系土器皿・高台付皿が出土している。

SD19溝跡

調査区南西部の第VI層上面で発見した東西溝である。溝の東側はSK18土壌と重複し、西側は調査区外に延びている。SD11・12溝跡、SK18土壌より古い。長さ約8.5mである。規模は上幅0.22～0.49m、下幅0.07～0.25m、深さ5～15cmである。壁は底面より緩やかに立ち上がり、底面は平坦である。埋土は荒い砂粒を含む褐色土である。遺物は土師器埴、須恵器長頸瓶が出土している。

SD20溝跡

調査区中央部東側の地山面で発見した東西溝である。SK18土壌より古い。長さ約5.1mである。方向は東で約29度北に偏している。規模は上幅0.21～0.51m、下幅0.19～0.29m、深さ4～6cmである。壁は底面より緩やかに立ち上がり、底面は平坦である。埋土は地山ブロックを含む褐色土である。遺物は出土していない。

SD21溝跡

調査区南東部の地山面で発見した東西溝である。溝の北端はSD15溝跡と重複し、南端は調査区外に延びている。SD15溝跡、SK17土壌より古い。長さ約5.8mである。方向は北で約45度西に偏している。規模は上幅0.42～0.83m、下幅0.3～0.33m、深さ8～10cmである。壁面は底面より緩やかに立ち上がり、底面は平坦面である。地山ブロックを多く含むオリーブ褐色土である。遺物は出土していない。

SD22溝跡

SI10竪穴住居跡カマド付近の地山面で発見した東西方向の小溝である。SI10竪穴住居跡、柱穴より古い。溝の東側は約2m離れた地点で停止している。規模は上幅10～28cmである。

SK17土壌

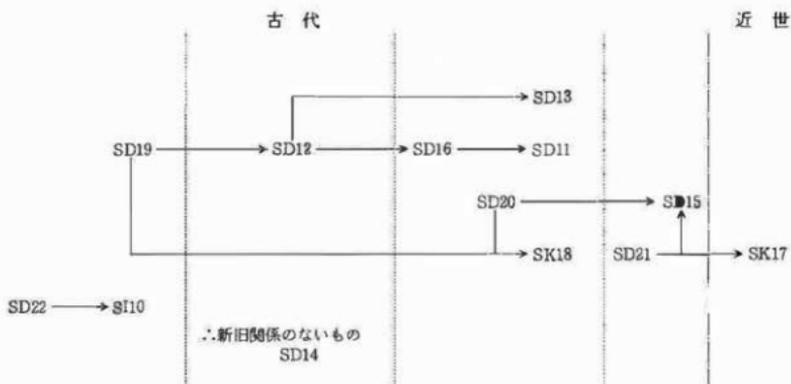
調査区東壁際の地山面で発見した楕円形の土壌である。SD21溝跡より新しい。遺構の東側は調査区外へ延びている。また、西側を一部攪乱のため破壊されている。規模は長辺2.63m、短辺2.05m以上、深さ0.66mである。壁面は底面より緩やかに立ち上がっている。底面は平坦である。埋土は5層に区別される。1層と2層は礫や黄褐色土を含む褐色粘土である。3層は地山土を含む暗褐色粘土、4層は酸化鉄粒子と黄褐色粘土を含むにぶい黄褐色粘土、5層は地山土を含む黒褐色土である。遺物は土師器杯、須恵器埴と近世の陶磁器碗が出土している。

SK18土壌

調査区中央部南側の地山面でSD09溝跡に隣接する地点で発見した不整形の土壌である。規模は長辺1.62m、短辺1.07m、深さ16cmである。壁面は北側では垂直気味に立ち上がるが、南側は緩やかである。底面には凹凸がある。埋土は凝灰岩粒を多く含むにぶい黄褐色粘土である。遺物は須恵器長頸瓶が出土している。

(3) 遺構の年代

今回の発掘調査によって発見した遺構は、堅穴住居跡1軒、溝跡10条、土壇2基である。発見したこれらの遺構について、新旧関係から整理すると以下ようになる。



各遺構の年代については、SD12溝跡から出土した須恵系土器の一括資料が指標となる。本遺構からは、今回出土した全遺物量の約88%を占めており、そのうち主体となる須恵系土器を含む割合は約55%となっている。これらの土器はF群土器と位置付けられるもので、10世紀前葉～中葉頃の年代が与えられている。(註)今回発見された遺構の新旧関係から整理すると、本遺構より古い遺構は、大きく10世紀前葉以前、新しい遺構はそれ以降に大別される。そこで、発見した遺構について見ると、古い時期に位置づけられるのは、SD19溝跡で新旧関係からSD12溝跡より古いことが判明している。また、本遺構から出土した遺物の中に須恵系土器を全く含んでいないことから10世紀前葉以前(9世紀代)の年代が与えられる。SI10堅穴住居跡についてはSD12溝跡とは直接新旧関係はないものの、SI10堅穴住居跡から出土した遺物の中には、須恵系土器が含まれていないことからSD19溝跡と同様な年代を考えている。SD22溝跡についてもSI10堅穴住居跡より古いことが判明しており、出土遺物がないが、発見された遺構群の中でも最も古い時期に置きたい。

次に新旧関係を持たないSD14溝跡について見ると、出土した遺物の主体が須恵系土器であることから、SD12溝跡と同じ年代と考えたい。また、SD16・13・11溝跡は、SD12溝跡より新しいことから10世紀中葉以降と見られる。さらにSK18土壇はSD20溝跡より新しいことが判明している。SD20溝跡では遺物が出土していないため、年代の決めてに欠けるが、SK18土壇から、少量ではあるが古代の遺物が出土しており、このことから両者についての年代は、大きく古代の範疇に収まるものと見ている。



第7図 調査区と周辺の地形図

前述した遺構群より新しいと見られるものは、SD15溝跡では、古代の土器に混じて施釉陶器が出土していることから近世より古い年代を考えている。出土遺物のないSD21溝跡については、新旧関係からSD15溝跡、SK17土壌より古いことが判明している。SK17土壌は出土遺物の中に近世の陶磁器を含んでいるため、近世の年代を与えられることから、SD21溝跡は古代よりは新しく近世より古い年代を考えている。

今回の3次にわたる調査の結果、本地区周辺では、第7図に調査区位置図に示したとおり、隣接した地点から古代から近世に至る遺構を発見した。

(注) 白鳥良一「多賀城出土土器の変遷」宮城県多賀城跡研究所『研究紀要 VI』1980

白鳥良一「第七章 考察(2)」宮城県多賀城跡研究所『多賀城跡 政庁跡本文編』1982

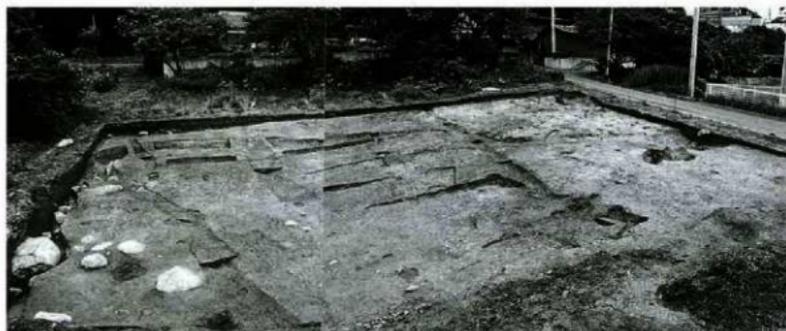
柳沢和明「3 第61次調査」宮城県多賀城跡研究所『宮城県多賀城跡研究所年報1991』1992

柳沢和明「3 第66次調査」宮城県多賀城跡研究所『宮城県多賀城跡研究所年報1995』1996

柳沢和明「3 第68次調査」宮城県多賀城跡研究所『宮城県多賀城跡研究所年報1997』1998

2. まとめ

- (1) 調査の結果、古代の竪穴住居跡1軒、溝跡8条、土壌1基と古代以降の溝2条、近世の土壌1基を発見した。
- (2) 主な遺構の年代については、出土した遺物と新旧関係から、SD12溝跡を基準にするとSI10、SD19・22は10世紀前半以前、他の溝跡及び土壌はそれ以降と見られる。また、遺物からSK17は近世と考えられる。
- (3) 本遺跡は、今回の調査によって多賀城と関連のある集落跡であることが明らかになった。



調査区全景（南より 合成写真）



SI10竪穴住居跡完掘状況（南西より）



SI10竪穴住居跡カマド（西より）



SD12溝跡検出状況（南より）



SD12溝跡断面図（東より）



SK17土城断面図（南西より）

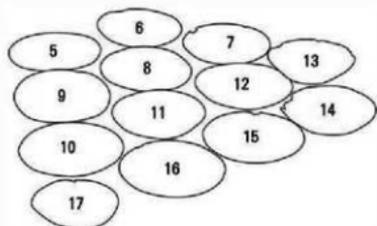
S D 12清跡出土遺物

- | | | | |
|---|---------|-------|-----|
| 1 | 土師器高台付杯 | 第5圖4 | R36 |
| 2 | 須惠系土器皿 | 第5圖6 | R13 |
| 3 | 須惠系土器皿 | 第5圖12 | R10 |
| 4 | 須惠系土器皿 | 第5圖8 | R11 |



S D 12清跡出土遺物

- | | | | |
|----|--------|-------|-----|
| 5 | 須惠系土器皿 | 第6圖20 | R43 |
| 6 | 須惠系土器皿 | | |
| 7 | 須惠系土器皿 | 第6圖8 | R44 |
| 8 | 須惠系土器皿 | 第6圖15 | R31 |
| 9 | 須惠系土器皿 | 第6圖5 | R27 |
| 10 | 須惠系土器皿 | 第6圖7 | R15 |
| 11 | 須惠系土器皿 | 第6圖2 | R21 |
| 12 | 須惠系土器皿 | 第6圖1 | R12 |
| 13 | 須惠系土器皿 | 第5圖16 | R47 |
| 14 | 須惠系土器皿 | 第6圖4 | R24 |
| 15 | 須惠系土器皿 | 第6圖10 | R25 |
| 16 | 須惠系土器皿 | 第5圖17 | R45 |
| 17 | 須惠系土器皿 | 第5圖19 | R14 |



報告書抄録

ふりがな	たかはらいせき
書名	高原遺跡
副書名	高原遺跡第2・3・4次調査報告書
シリーズ名	多賀城市文化財調査報告書
シリーズ番号	第73集
編著者名	石川 俊 英
編集機関	多賀城市埋蔵文化財調査センター
所在地	〒985-0873 宮城県多賀城市中央二丁目27番1号 TEL022-368-0134
発行年月日	西暦2004年3月31日

所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
高原遺跡 (第2次調査)	宮城県 多賀城市 浮島字 高原71-12	042099	18042	38度 18分 16秒	141度 00分 13秒	20020307	188㎡	宅地造成
高原遺跡 (第3次調査)	宮城県 多賀城市 浮島字 高原71-12	042099	18042	38度 18分 16秒	141度 00分 13秒	20020521 20020603	210㎡	共同住宅 建設
高原遺跡 (第4次調査)	宮城県 多賀城市 浮島字 高原98-2	042099	18042	38度 18分 16秒	141度 00分 12秒	20030722 20030821	250㎡	共同住宅 建設

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
高原遺跡 (第2次調査)	散布地	平安時代	溝 小溝 方形状の落ち込み		
高原遺跡 (第3次調査)	散布地	平安時代	竪穴住居 掘立柱建物 柱列 溝 土壇 沢状遺構 平場状遺構	土師器 須恵器	
高原遺跡 (第4次調査)	散布地	平安時代	竪穴住居 溝 土壇	土師器 須恵器 須恵系土器	須恵系土器がまとまって出土した。

多賀城市文化財調査報告書第73集

高 原 遺 跡

－ 第 2 ・ 3 ・ 4 次調査報告書 －

平成16年3月31日発行

編集 多賀城市埋蔵文化財調査センター
多賀城市中央二丁目27番1号
電話(022)368-0134

発行 多賀城市教育委員会
多賀城市中央二丁目1番1号
電話(022)368-1141

印刷 有限会社 工 陽 社
宮城県塩竈市尾島町8番7号
電話(022)365-1151
